



CLUB WEEKLY No.0052

よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ

ロータリー親睦活動月間

例会日:2026年6月15日(令和8年6月15日)



会長 平松悦子

今日の例会

2026年6月15日

- 進行担当 安田会員 18:30~
- 今日の歌 奉仕の理想
- 出席・ニコニコ 道木憲子会員
- 卓 話 会長幹事年度末挨拶

次回の例会

2026年6月22日

- オンライン例会 12:30~
- 進行担当 竹谷会員
- 今日の歌 四つのテスト
- 出席・ニコニコ 青戸会員

会長挨拶

【会長 平松 悦子】

皆様、本日は私の到着が遅れ、大変申し訳ございませんでした。翻訳業務や多言語対応などで調整に時間を要し、結果としてロータリーの活動にもご迷惑をおかけしてしまいました。

さて、本日で私の会長としての任期も最後となります。この一年を振り返りますと、至らない点ばかりだったと感じております。しかし、そのような私を会員の皆様が温かく支え、助けてくださったおかげで、何とか務めを果たすことができました。

特にエレクトには、仕事の都合で会長挨拶をお願いするなど、多くの場面で支えていただきました。皆様のお力添えに、心より感謝申し上げます。今月で会長職は終わりますが、次年度は間嶋会長を精いっぱい支え、私にできる限りの協力をしてまいりたいと思っております。また、会長としての締めくりに、このような素晴らしいご講演を拝聴する機会に恵まれたことを、大変うれしく思います。

人は明日のことが分からないからこそ、前を向いて生きていけるのではないのでしょうか。もし明日のすべてが分かってしまったら、不安や恐れで生きていくことが難しくなるかもしれません。明日には良いことがあるかもしれませんが、逆に世の中には戦争など、心を痛める出来事が起こるかもしれません。だからこそ、本日のご講演のお話を胸に刻み、一日一日を大切に過ごしていきたいと感じております。

本日は多くのお客様、そして新しいメンバーにもご参加いただきました。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

幹事報告

【幹事 久保太公矢】

- ① 先日、各委員長にご提出いただきました「2026-27年度クラブ活動年次計画書」を印刷し、本日配布しております。8月3日に開催されるガバナー補佐ご臨席のクラブ協議会において、各委員長よりご発表いただく資料となります。ご確認のうえ、変更等がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。変更がない場合は、そのまま発表していただきますので、8月3日にご持参をお願いいたします。
- ② 本日、「2026-27年度 前期会費・諸経費ならびに寄付金納入のお願い」を配布しております。7月末日までにお振込みくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

大阪上方ロータリークラブ

創立:2024年7月22日 例会:第1・3週目は対面・第4週目はオンライン

台北東湖ロータリークラブ食事会

会長 平松悦子
幹事 久保太公矢
会報資料担当 青戸佳世

【例会場】〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 6-1-55 シェラトン都ホテル大阪
TEL:06-6773-1111 FAX:06-6773-3322
【事務局】〒579-8058 東大阪神田町 3-12 医療法人翔聖会 気付
TEL:080-2026-1803 Mail:osaka.kamigata.r.c@kind.ocn.ne.jp

皆様、こんにちは。初めましての方もいらっしゃるかと思います。藤間好太郎と申します。

このたび、大阪水都ロータリークラブから移籍し、大阪上方ロータリークラブでお世話になることとなりました。また、それに合わせて大阪上方ひびきロータリー衛星クラブを設立し、クラブの皆様とともに、さらに活動を盛り上げていければと考えております。大阪水都ロータリークラブでは、溝畑先生に大変お世話になりました。また、梶田さんと溝畑先生には、大阪水都ロータリークラブを陰で支えてこられた存在として、さまざまなご尽力をいただきました。

そのようなご縁があり、今回、大阪上方ロータリークラブにお世話になることも、何か深いご縁を感じております。

実は住まいもこの近くで、車で10分ほどの距離にありますので、とても親しみを感じております。

皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



衛星クラブの皆様におかれましては、ご入会を心より歓迎申し上げます。誠にありがとうございます。

これからは、ともに大阪上方ロータリークラブの一員として歩んでいただくこととなります。私からも心から歓迎を申し上げるとともに、新しい風と新しいエネルギーをクラブに吹き込んでいただき、お力添えを賜れば大変うれしく存じます。

そして、共に学び、共に成長し、力を合わせて社会に貢献してまいりたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【米山奨学生 マスード・アフアフさん】

先週の火曜日は、「アラファの日」でした。その日にメッカでは巡礼が行われます。巡礼に行かない多くのイスラム教徒がその日に断食をします。そして、その翌日の水曜日と木曜日はお祝いの日で、おいしいものを食べたり、新しい服を着て出かけたりして過ごします。私と一緒に住んでいる人は授業で忙しかったので、週末にベトナム料理を食べに行きました。私は本格的なベトナム料理を食べるのが初めてだったのですが、とてもおいしくて驚きました。皆様にも、機会があればぜひ一度味わっていただきたいと思います。



【奉仕部門 青少年奉仕受賞
古河 亜紀子会員】



古河亜紀子と申します。この度青少年奉仕部門で表彰状いただけましたが、小児歯科の職業をいかしまして、整肢学園に入院されている障害を持つ、患者さんたちに歯科検診ボランティアの歯科検診を他の先生方とさせていただいた結果でございます。今後も続けていきたいと思っておりますので、皆様またよろしくお願いたします。

【大阪大手前整肢学園 歯科治療奉仕活動 間嶋 伸治会長エレクト】

先ほど古河会員からお話がありました、大阪大手前整肢学園での歯科検診活動についてご案内いたします。この学園には、生まれてから一度も病院の外に出たことがないような、重い障がいを抱えたお子さんたちが多く入院されており、約50名の子どもたちが生活しています。

次年度の歯科検診は、10月29日（木曜日）の午後1時から実施する予定です。通常であれば何回かに分けて行うところですが、今回は5つほどのチーム体制で対応し、1日で全員の検診を終えたいと考えております。

また、当日どうしても外出や付き添いなどの事情で受診が難しい方がおられた場合には、別日を設けて対応したいと考えております。さらに、今回は単に歯科検診を行うだけではなく、現場の皆様のお声を直接伺い、日頃どのようなことに一番困っておられるのかを知りたいと思っております。そして、セルフケアや、お口を通した食事の大切さ、さらには食育などについても、もう一歩踏み込んだ形で支援やアプローチができればと考えております。まだ理事会で正式に承認をいただいている段階ではありませんが、そのような活動へと発展させていきたいと思っております。ぜひ多くの会員の皆様にご参加、ご協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



本日は、「相続終活の新しい捉え方」というテーマで、皆様にお話をさせていただきます。私たちが取り組んでいるのは、単なる財産の承継ではありません。私たちの使命は、「心置きなく生きることを支える」ことです。その想いを胸に、相続相談の専門家として活動しております。

もともと私は金融機関でキャリアを積んできました。本当に多くのお客様に恵まれ、たくさんのご縁をいただきました。しかし、その中で気づいたことがあります。財産があっても家族との間に溝がある方、財産があっても孤独を抱えている方、そうした現実を数多く目の当たりにしてきました。「私が商品をお預かりしても、この方は本当に幸せなのだろうか。」そんな思いが、ずっと心の中にありました。そこで私は、商品を販売することをやめ、「心置きなく生き切ることを支える」という理念のもと、一人で独立し、個人事業としてスタートしました。もちろん、最初は簡単ではありませんでした。振り返ると、うまくいかなかった理由は、専門士業の先生方の真似をしようとしていたからでした。そこで視点を変え、「心置きなく生きる」という価値に真正面から向き合い、会社を立ち上げ、「つなぐ相続サロン」という組織を作りました。現在は一般社団法人として活動し、企業や行政とも連携しながら事業を進めています。現在では、北海道から九州まで約50事業所で活動しており、ご家族が遠方にお住まいの場合でも、地域を超えてサポートできる体制を整えています。私たちの活動には、大きく二つの柱があります。

一つは、どのタイミングでも相続相談ができる「つなぐ相続サロン」。もう一つが、「ライブ・ファミリーサポート」です。私は「家族のような存在」という言葉を大切にしています。ご家族がおられない方、あるいはご家族に頼ることが難しい方に対して、「もし家族がいたら、どのような支えを受けられたらう」という視点で、見守りから最期のお片付けまで、一貫して支援を行っています。相続という仕事は、これまで福祉や介護、行政との連携が難しい分野でした。しかし今では、行政とも連携し、介護や看護、福祉の専門家の皆様とともに学び合いながら活動しています。

一般向けのセミナーにも多くの方にご参加いただいておりますが、そこで私が皆様にお伝えしたいのは、「相続とは財産の話だけではない」ということです。私は、「生きる準備を整えること」に目を向けています。ところが、実際には、自分自身の生きる準備や相続対策を進めている方はほとんどおられません。なぜか。それは、「明日、自分が旅立つとは思っていない」からです。「そのうちやろう」「まだ大丈夫」と先送りになってしまいます。私は、これこそが社会課題だと考えています。そこで注目したのが、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」という考え方です。この課題に向き合うため、私は「つなぐノート」を作りました。これはエンディングノートではありません。私にとって、生きることの方が、旅立つ準備以上に大切だからです。もしもの時に命をつなぐために、どんな情報が必要なのか。緊急搬送された時に必要な情報や、ご自身の希望、大切な人に伝えたいことを書き留めておくためのノートです。このノートを書き進めることを支援する「つなぐノートサポートアドバイザー」という民間資格も立ち上げました。私は、この活動を通じて、親子の会話や家族のつながりを生み出すことができたことを、とても嬉しく思っています。相続対策とは、税金を減らすことだけではありません。人生を振り返り、自分の本当の気持ちに向き合い、家族との調和を育み、これからの人生を安心して生きるための準備をすることだと考えています。

そして、私が思う理想の相続とは、「ありがとう」と旅立てること。そして、「ありがとう」と見送ってもらえること。これが何よりも大切なのではないのでしょうか。社会には多くの課題があります。しかし、目の前の一人ひとりの命をつなぎ、小さなことから行動していくことが、未来につながると信じています。これからも「つなぐ相続サロン」として、「心置きなく生きる社会」の実現に向けて活動してまいります。本日は、貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

